

## ユーラシアを歩く会 行動報告書

## The Trans-Eurasia Walking Journey Program

## 1. 計画コース概要

提出日:

地域分類	東アジア	区間番号	日本東部 3-2
国名	日本	実施期間	2011.9.27 ~ 2011.9.29
計画区間	出発地:木曾福島 到着地:下諏訪	参加人数	6名

## 2. メンバー表

No	役割・分担	氏名		行き	帰り
1	リーダー	安藤 潔	出発日	2011.9.27	2011.9.30
2		小磯 信夫	出発場所	上野	下諏訪
3		木村 紀穂	到着場所	木曾福島	新宿
4		丸茂 徹一	使用便名	JR	JR
5		山田 則義	航空会社	JR	JR
6		伊藤 喜文			

## 3. 現地での歩行結果

	年月日	国名	出発～到着	区間距離 Km	天候	気温 最低/最高
1日目	2011.9.27	日本	木曾福島～藪原	14km	晴	20/25度
2	9.28		藪原～洗馬	24km	晴	15/25
3	9.29		洗馬～下諏訪	18km	晴	20/25

## 4. 見聞録

ルートの状況：2011年9月27日9時45分、木曾福島駅に遠く関東から小磯、山田、安藤、地元の茅野市から木村、軽井沢から丸茂のワングル7期の面々が馳せ参じた。ここから中山道を下諏訪の宿まで膝栗毛しようというのである。空は快晴、気温20度、歩くには最高の天気である。まずは正式な出発地、福島関所まで足慣らし、ついでに関所資料館を見学する。

10時45分、関所門で記念撮影(写真)、氣勢を上げて膝栗毛が始まる。本格的な歩きを共にするのは50年振りである。中山道はほとんど国道とは別になっており、車が通らないので昔話をしながら歩ける(写真)。歩き始めると間もなく、友は数時間前に会った顔ではなく50年前の顔になり、名は呼び捨てになっていた。不思議なことに半世紀の時は消滅していた。

13時45分、宮ノ越宿の木曾義仲の菩提寺、徳音寺で休憩。まだまだ皆元気である。巴御前ゆかりの巴淵を過ぎると木曾谷は狭くなり、国道の測道を歩くことが多

くなる。最後の4 km は皆黙々と歩く。

15時45分、藪原駅前の勇や旅館に到着。5人全員が1日目の全行程14kmを歩き通した。18時より楽しい宴会が始まる。

9月28日7時30分、4人で宿を出発。難関の鳥居峠越え（標高差250m）ということで小磯は峠の向こうの奈良井で合流予定である。早朝の藪原宿を抜けると上り坂が始まる。幅1～2mの良く整備された登山道である。今日も快晴、気温も低く歩きやすい。木漏れ日の中をゆっくり歩く（写真）。峠近くの鳥居のある御岳遙拝所からは御嶽山と中央アルプスがくっきりと見えた。

9時、鳥居峠着。峠からは当然下り坂である（写真）。歌の一つも飛び出すかと期待したが、聞こえてこなかった。7期は小島が居ないと歌が出ないのだった。

10時、山道が終わり奈良井宿にはいる。皆老いたりといえども元ワンゲル、足音高く元気に峠越えを終える。ここで、小磯と桑名市から駆けつけた伊藤喜文とが合流、奈良井宿の土産物屋をひやかしながら（写真）、旧交を温める。しかし、伊藤は体調不良ということで奈良井宿の端から他の端まで歩いてだけで帰宅するという。きっとユーラシアを歩いた仲間ですら最短距離を歩いた男、となるだろう。

11時、伊藤と別れ、5人は奈良井宿を出発。漆器の町平沢では土産に箸を求め、道の駅ではゆっくり昼食をとる。この辺も中山道と国道はたまに交差する程度で（写真）、別になっている。贄川駅に13時45分着。ここで山田と小磯は列車で昨夜の宿に戻り、車を今夜の宿に回送することにする。

15時、桜沢にある「是より南木曾路」の碑の所で休憩、木曾路が終わり信濃路？が始まる。碑を過ぎると山が遠ざかり、行く手には塩尻盆地が広がる。この日も15時を過ぎると口数は少なくなり、黙々と歩く。

16時30分、洗馬宿近くの民宿、千倉着。歩行距離は24km。この日の夕食は茸づくし、茸がいやというほどでた。おかげで翌日は大きい方がいやというほど出た。

9月29日8時、宿より安藤、木村、丸茂が歩き始める。今日も快晴。小磯と山田は車で出発し、塩尻峠から合流予定である。今回の歩行は木曾福島から下諏訪まで通して歩くが、体調不良の場合は自己申告で列車、車を利用している。洗馬宿を過ぎると塩尻盆地には入り、左手に常念岳らしき高山が見える。9時、これまで北へ向かっていた中山道が東に向かうようになり、常念岳は後になる。道の両側はブドウ畑、早速1パック購入し休憩のたびに食べる。しかし、よく見ると収穫後の木に取り残しの粒がちらほらある。帽子を直す振りをして手をのばし、口に運ぶ。美味い。ザックには購入したブドウがあるからと言い訳を考えながら。10時頃から塩尻峠の上り（標高差300m）が始まる。鳥居峠より標高差はあるが、傾斜は緩く、舗装路なので苦にならない。

13時10分～45分、塩尻峠。今回の歩きの目的地、下諏訪の町と諏訪湖が手に取るように見渡せた。峠からは5人全員である。

15時15分、目的地下諏訪駅に到着（写真）。安藤、木村、丸茂は全行程56kmを完歩した。感激する暇もなく木村が設定した地元3新聞社の取材を受ける。このうち信濃毎日新聞（写真）と長野日報の30日付け朝刊には写真入りで我々のことが掲載された。

18時、下社秋宮境内にあるホテル山王閣で無事歩き終えた事を祝して乾杯。乾杯には静岡から綾部（7期、ロンドン～ドーバー間を歩く）が駆けつけてくれた。年令と疲労のためか酒量は少なかったが、道中の話題、昔話に花が咲き、また、ロンドン～日本橋の鎖の一環となれたことを祝い、11月13日には日本橋で再会することを誓った。



出発地の木曾福島関所跡

自然環境：木曾福島～洗馬間は山がせまり、田畑は少ない。洗馬～下諏訪間は平野（盆地）で果樹（ブドウが主）園が多い。

人々の生活：木曾福島～洗馬間は古い街道沿いの建物を残し、観光の目玉にしている。また、クシ、箸、椀および漆製品の製造、販売で生活しているようである。洗馬～下諏訪間は果樹栽培、ワイン製造と工場（精密機械）が生活の糧のようである。

食べ物・酒・その他

### 5. 総費用

個人	渡航費	18,000円
	宿泊費	28,000円2食付
	食費	5,000円
	その他	2,000円
	合計	53,000円

グループ		
	合計	

### 6. 記録写真・ビデオなど



奈良井の町



下諏訪駅に到着15時 15分



写真3 鳥居峠への山道